

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化・精選化等の理由	下学年での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
5	筆者の考えをとらえ、自分の考えを発表しよう 「見立てる生き物は円柱形」 ◎要旨をとらえて自分の考えを明確にしながら読み、自分なりの考えをもつ。	C(1)ウ・オ B(1)カ 伝国(1)イ	7 (+1)	本教材の要旨をまとめる前に短い文章で要旨のまとめ方の学習を行う。「要旨」の理解を深め、決められた字数で要旨をまとめる練習にすることで、自分の力で要旨をまとめる事が出来るようになることをねらう。	目的に応じて、中心となる語やぶんととらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む。	○中1では、目的に応じて文章の必要な部分を読み指導をする。そのために、本学年ではなんのために必要かを明確にして要旨をとらえ、一定の分量や表現の仕方でもとめる指導をする。	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする。	
	声に出して読もう 「竹取物語・枕草子・平家物語」 ◎古典の文章を音読し、言葉の響きやリズムを味わうと共に文章の大体を知る。	伝国(1)アイ	2		易しい文語調の短歌や俳句について情景を思い浮かべたりリズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりする	○本学年では、独特のリズムや特有の美しい語調を音読することを通して感覚的に味わい、古文や漢文は読んで楽しい物であることを、自分を豊かにする物であることを実感させる。	文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れる。	
	漢字の広場② ◎4年生までに配当されている漢字を書き、文や文章中で使う	伝国(1)ウ(ア) B(1)オ			学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすること	○漢字による熟語など語句の使用が増加する時期であるので感じの持つ意味を考えながら正しく使ったり同音異義語に注意して使ったりする習慣を身に付けさせる。	配当表に示されている漢字に加え、250字から300字程度までの漢字を読む。学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。	
	「きくこと」について考えよう 「きいて、きいて、きいてみよう」 ◎話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。	A(1)ア・イ・エ 伝国(1)イ	4		話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりする。	○中1では、自分の考えとの共通点や相違点についてより論理的に整理しながら聞く指導をする。そのために、本学年で自分の意見と比べながら聞き、自分の考えをまとめる指導をする。	必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理する。	
6	伝記を読んで、自分の生き方について考えよう 「百年後のふるさとを守る」 ◎目的に応じて本や文章を比べたり関連させたりして読み、自分の考えを広げたり深めたりする。	C(1)イ・ウ・オ・カ B(1)カ	10		目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりする。 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づく。	○中学では、考えを拡張する指導をする。そのために、小学校で、読んで考えたことを友達と交流する指導をする。中学では、より詳細に文章を評価する指導をする。そのために中学年で学習した引用したり要約したりすることを思い出させながら指導する。	文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつ。 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分の物の見方や考え方を広げる。	

	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化・精選化の理由	下学年の既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
	敬語 ◎日常よく使われる敬語の使い方に慣れる。	伝国(1)イ	2			○本学年では、丁寧な言い方などについて理解させ、日常の言語生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れさせる。		
6 ～7	活動を報告する文章を書こう 「次への一歩－活動報告書」 ◎自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考える	B(1)イ・ウ・オ・カ 伝国(1)イ			文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成する	○中1では、段落の役割を考える指導をする。そのために、本学年で相手に考えを明確に理解させるような構成の効果を指導する。	集めた材料を分類するなどして整理すると共に、段落の役割を考えて文章を構成する。	
7	漢字の広場③ ◎4年生までに配当されている漢字を書き、文や文章中で使う	伝国(1)ウ(ア) B(1)オ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすること	○漢字による熟語など語句の使用が増加する時期であるので感じの持つ意味を考えながら正しく使ったり同音異義語に注意して使ったりする習慣を身に付けさせる。	配当表に示されている漢字に加え、250字から300字程度までの漢字を読む。学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。	
	夏の日 ◎語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもち、表現を工夫して暑中見舞いを書く	B(1)ア 伝国(1)ア	2		関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べる	○中1では、日常生活の中から課題を決め、材料を収集する学習をする。そのために、本学年で考えたことなどを話題として選び、材料を収集する指導をする。	日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめる。	
7	詩を楽しもう 「われは草なり」 ◎自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすると共に、優れた叙述について自分の考えをまとめる。	C(1)ア・エ 伝国(1)ア・イ	1		内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する	○本学年までに音読、朗読の指導を十分に行い、中学で言語事項として適宜活用できるようにしておく		
	カンジー博士の暗号解説 ◎クイズを通して同じ漢字を書き分けると共に、5年生までに学習した漢字を読んだり書いたりする。	伝国(1)ウ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすること	○漢字による熟語など語句の使用が増加する時期であるので感じの持つ意味を考えながら正しく使ったり同音異義語に注意して使ったりする習慣を身に付けさせる。	配当表に示されている漢字に加え、250字から300字程度までの漢字を読む。学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。	

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化・精選化等の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
8 ～9	自分の考えをまとめて、討論しよう 「豊かな言葉の使い手になるためにはインターネットを使って調べる話し合うために大切な言葉」 ◎話題を決めて、収集した知識や情報を関連付け、互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合う。	A(1)ア・オ B(1)ア・エ 伝国(1)イ	14		互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う。	○中1では、相手の発言を自分の考えに生かす指導をする。そのために、本学年では、相手の意図を考慮し、自分の意見と比べる指導をする。中学ではより建設的な話し合いをするために、本学年では時間配分や発言の長さを意識して計画的に話し合うことを指導する。	話し合いの話題や咆哮をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめる。	
9	和語・漢語・外来語 ◎語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつ。	伝国(1)イ	2		表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣をつける。	○本学年では、実際の言語活動において、話しや文章の中でどのように関連付けて使用されているか、自分が理解したり表現したりするときどのように活用すればよいかについて考えさせる活動へつなげていく。	単語の種類について理解し、指示語や接続語及びこれらと大名時用ナ働きをもつ語句などに注意する。	
10	作品を自分なりにとらえ、朗読しよう 「大造じいさんとガン」 ◎自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすると共に、優れた叙述について自分の考えをまとめる。	C(1)ア・エ B(1)オ 伝国(1)イ	8 (+1)	・情景描写の効果について話し合い、それを基にした感想文を書かせる。その際に、学年で使いたい語彙表を紹介し、その言葉を使った短文づくりを行い、語彙力をふやすことをねらう。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む。	○中1では、より分析的な読みの指導をする。そのために、本学年では登場人物の相互関係に基づいて心情をとらえる指導をする。また、優れた叙述について自分の考えをもちながら読む指導をする。	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てる。	
	漢字の読み方と使い方 ◎複数の漢字の読み方と、特別な読み方をする言葉について理解し、知識をもつこと。	伝国(1)ウ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすること	○漢字による熟語など語句の使用が増加する時期であるので感じの持つ意味を考えながら正しく使ったり同音異義語に注意して使ったりする習慣を身に付けさせる	配当表に示されている漢字に加え、250字から300字程度までの漢字を読む。学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。	
	秋の空 ◎近代以降の文語調の文章について内容の大体を知り、昔の人のものの見方や感じ方を知る。	伝国(1)ア・イ	1		易しい文語調の短歌や俳句について情景を思い浮かべたりリズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりする	○本学年では、独特のリズムや特有の美しい語調を音読することを通して感覚的に味わい、古文や漢文は読んで楽しい物であることを、自分を豊かにする物であることを実感させる。	文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れる。	

	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化・精選化等の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
11	説明のしかたについて考えよう 「天気を予想する」 ◎前半部分と後半部分の書かれ方の違いに着目し、筆者が伝えたいことを考えながら読む。	C(1)ウ・オ 伝国(1)イ	6		目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む。	○中1では、目的に応じて文章の必要な部分を読み指導をする。そのために、本学年ではなんのために必要かを明確にして要旨をとらえ、一定の分量や表現の仕方でまとめる指導をする。	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする。	
	理由付けを明確にして説明しよう 「グラフや表を引用して書こう」 ◎目的や意図に応じて修正した事柄を整理すると共に、書き方を工夫して自分の考えが伝わるように書く。	B(1)ア・ウ・エ・カ 伝国(1)イ	4 (+1)	・実際に文章を書く前に修飾語について取り上げ指導を行う。修飾語についての定着を図るとともに、自分の文章に生かしていこうとする態度を養うことをねらう。	文章の常体と敬体の違いに注意しながら書く	○中学では、自分の考えなどを根拠を明確にして書く指導をする。そのために、本学年で自分の考えを根拠付けるための、図表やグラフなどの引用を指導する。	伝えたい事実や事柄について、自分の気持ちを根拠を明確にして書く。	
12	同じ読み方の漢字 ◎同訓異字、同音異義語について知り、言葉や漢字への興味を深めることができる。	伝国(1)ウ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすること	○漢字による熟語など語句の使用が増加する時期であるので感じの持つ意味を考えながら正しく使ったり同音異義語に注意して使ったりする習慣を身に付けさせる	配当表に示されている漢字に加え、250字から300字程度までの漢字を読む。 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。	
	声に出して読もう 「論語」 ◎漢文を音読し、漢文特有の言い回しやリズムを味わうと共に、文章の内容の大体を知る。	伝国(1)ア・イ	1		易しい文語調の短歌や俳句について情景を思い浮かべたりリズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりする	○本学年では、独特のリズムや特有の美しい語調を音読することを通して感覚的に味わい、古文や漢文は読んで楽しい物であることを豊かにする物であることを実感させる。	文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れる。	
12	本は友達 わたしたちの「図書館改造」提案 「千年の釘にいどむ」 ◎本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。	B(1)ア・イ・ウ・エ・オ・カ C(1)オ 伝国(1)イ	6 (+1)	・提案書の推敲の時間をとり、漢字や言葉の間違い、構成などの表現の仕方を自己評価・相互評価をさせる。言葉にこだわる習慣作りにしたい。	書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さ等について意見を述べ合う	○中学では、考えを拡張する指導をする。そのために、書く目的や意図に照らして構成や表現について助言し合う指導をする。中1では、根拠の確かさを評価する指導をする。そのために、本学年では表現の仕方を評価する力をつける指導をする。	書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の使い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現を参考にしたりする。	

単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化・精選化等の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
漢字の広場④ ◎4年生までに配当されている漢字を書き、文や文章中で使う	伝国(1)ウ(ア) B(1)オ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすること	○漢字による熟語など語句の使用が増加する時期であるので感じの持つ意味を考えながら正しく使ったり同音異義語に注意して使ったりする習慣を身に付けさせる	配当表に示されている漢字に加え、250字から300字程度までの漢字を読む。 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。	
聞いて楽しもう 「雪女」 ◎読み聞かせを聞いて、登場人物同士の関係、人物の変容、行為や会話をとらえる。	C(1)エ	1		場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む。	○中1では、より分析的な読みの指導をする。そのために、本学年では登場人物の相互関係に基づいて心情をとらえる指導をする。また、優れた叙述について自分の考えをもちながら読む指導をする。	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てる。	
詩を楽しもう 「詩の楽しみ方を見つけよう」 ◎優れた表現に着目し、気に入った詩を見つける。	C(1)エ 伝国(1)イ	2			○本学年では、多様な文章に表れるさまざまな表現の工夫に気づかせたり、自分の表現に活用させたりする。	比喩や反復などの表現の技法について理解する。	
自分の考えを明確にしながらか読もう 「ゆるやかにつながるインターネット」 書き言葉と話し言葉 ◎筆者の考えを理解し、それに対する自分の考えをもち、発表し合ったり広げたり深めたりすることができる。	C(1)ウ・オ B(1)ア・エ A(1)ウ 伝国(1)イ	8		目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む。	○中1では、目的に応じて文章の必要な部分を読む指導をする。そのために、本学年ではなんのために必要かを明確にして要旨をとらえ、一定の分量や表現の仕方でもとめる指導をする。また、自分の知識や経験と関係づけ、考えを明確にしながらか読む指導をする。	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする。	
漢字の広場⑤ ◎4年生までに配当されている漢字を書き、文や文章中で使う	伝国(1)ウ(ア) B(1)オ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすること	○漢字による熟語など語句の使用が増加する時期であるので感じの持つ意味を考えながら正しく使ったり同音異義語に注意して使ったりする習慣を身に付けさせる	配当表に示されている漢字に加え、250字から300字程度までの漢字を読む。 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。	

	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化・精選化等の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
2	理由を明確にして、すいせんしたり、それを聞いたりしよう 「すいせんします」 ◎収集した知識や情報を関連付けて、目的や意図に応じた話しの構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話す	A(1)ア・イ・エ 伝国(1)イ	6		関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモする。	○中1では、日常生活の中から話題を決め、広く情報を収集活用する学習をする。そのために、本学年で経験したことなどから考えたことなどを話題として選び、情報を比較・分類などする力を身に付ける指導をする。	日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め、整理する。	
	複合語 ◎複合語とは何かを知り、組み合わせ方を理解し、幾つかの組み合わせ方の複合語を集める。	伝国(1)イ	2		表現したり理解したりするために必要な語句を増やし、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解する。	○本学年では、実際の言語活動において、語や文章の中でどのように関連付けて使用されているか、自分が理解したり表現したりするときどのように活用すればよいかについて考えさせる活動へつなげていく。		
	冬から春へ ◎近代以降の文語調の文章について内容の大体を知り、昔の人のものの見方や感じ方を知る。	伝国(1)ア・イ	1		易しい文語調の短歌や俳句について情景を思い浮かべたりリズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりする	○本学年では、独特のリズムや特有の美しい語調を音読することを通して感覚的に味わい、古文や漢文は読んで楽しい物であること、自分を豊かにする物であることを実感させる。	文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れる。	
2 ～3	物語を読んで、自分の考えをまとめよう 「わらぐつの中の神様」 ◎登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめるとともに、それを発表し合い、広げたり深めたりする。	A(1)エ・オ B(1)カ 伝国(1)イ	7		文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気づく。	○中学では、考えを拡張する指導をする。そのために、小学校で、読んで考えたことを友達と交流する指導をする。中学では、より詳細に文章を評価する指導をする。そのために、小3、4で必要なところを引用したり要約したりする。	文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方夜考え方を広げる。	
	構成や表現を工夫して書こう 物語を作ろう ◎写真を選び、文章全体の構成の効果や表現の効果を生かして物語を書く。	B(1)ア・イ・オ・カ 伝国(1)イ	6 (+1)	・書く前に表現の工夫について学習を行う。具体例を紹介し、短文づくりを行い、言葉にこだわりよりよい文章を書こうという意欲をもたせたい。	文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする。	○中学では、より詳細な推敲をする。そのために、本学年では、読み手の立場を考えながら推敲する力をつけると共に、自己評価・相互評価を積極的に指導する。	書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にする。	
	漢字の広場⑥ ◎4年生までに配当されている漢字を書き、文や文章中で使う	伝国(1)ウ(㍿) B(1)オ	2		学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすること	○漢字による熟語など語句の使用が増加する時期であるので感じの持つ意味を考えながら正しく使ったり同音異義語に注意して使ったりする習慣を身に付けさせる	配当表に示されている漢字に加え、250字から300字程度までの漢字を読む。学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。	
	合計		175					

